

NTS物語

吉田 隆

一、本をつくりはじめたころ

④出合い(上)

出版社の成功は、日頃お付き合いのある先生方との出合いに左右されるといっても過言ではない。フシテクには「センサ実用便覧」の大森豊明先生がいた。「センサ」は私の入社に相前後して出版されたのでよく記憶しているが、寿命の長さや読者層の厚さで群を抜く本である。改定版、普及版等を含ませ現在までに販売部数は約一万部を数えるだろう。定価五万円の世界では驚異的な数でありフシテクの基礎を築いた一冊と言ってもいい。大森先生には私の仲人もお願いいただいた。

NTSの歴史は九州大学の湯原浩三先生と、清山哲郎先生を抜きにしては語れない。湯原先生との出合いは昭和五十四(一九七九)年の「地熱」セミナーがきっかけだった。その後、先生の監修で「地熱開発総合ハンドブック」(昭和五十七年、フシテク刊)を作った。独立に際しても折にふれ相談に伺った。NTS設立後間もない頃、セミナーの企画を頂いたことがある。当時のNTSの実力に余ることもあり、先生にDM発送費をお借りしての開催であった。そして「提言通り」の大

成功であった。お借りした分は、その後利息を付けてお返しした。平成二(一九九〇)年、日本地熱学会の事務局がつくば市より当社内に移動した時も、当時会長であった先生のお引き立てであった。情報・出版企業にとって学会との付き合いはビジネス上のメリットとは別に社会的信用の上で得るところが大きい。学会事業部の存在意義はその点にある。翌年の(社)日本地熱学会の当社内への設置も日本地熱学会との縁がきっかけであった。一昨年の国際温泉科学会(S-I-T-H)第三十三回箱根大会の実行事務局の仕事まで先生のお付き合いはかれこれ二十年になる。益々のご健勝をお祈りしたい。同じく日本地熱学会元会長で、S-I-T-H箱根大会でも実行委員長を務められた岡満先生とも「地熱」セミナーや「地熱ハンドブック」で湯原先生にご紹介頂いて以来であるから長いお付き合いである。一昨年来、科学技術情報部技術顧問として新たなお付き合いを始めることになったのも不思議なご縁を感じるのである。考えて見るとお会いした当時の両先生は、ほぼ今の私と同年齢だったわけである。時の流れに感慨深いものを覚える。

(次号へ続く)

掲示板

今月の人事

一月二十二日付退社 市川営業所

引越し、及び移動について

次の日程で、引越し、及び移動を行ないます。関係部署を始め各位、対応に万全を期す様お願いいたします。

一月二十九日

営業・編集企画・科学技術情報部

四階内にて移動

一月 三十日

発送部門・NSハイテック

市川より地下一階へ引越

社内清掃について

次の日程で、本社事務所内の床掃除を行ないますので宜しくお願い致します。当日休日出勤の予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

二月二十八日(日)

出退勤及び鍵の管理について

一月二十五日より総務部が一階にて業務を開始します。出退勤タイムカードは全て一階にて打刻する様お願いいたします。これに伴い四階及び地階の鍵は全社共有の一本の鍵を使用します。一番最初の社員が開錠、一番最後の社員が施錠、開扉中は、指定場所に提示、閉扉中は一階指定場所に保管という取り扱いにします。ので各位ご協力の程よろしくお願い致します。

編集後記

新年おめでとうございませう。本年もNTSニュースをどうぞよろしくお願いいたします。

「心の窓」では大阪府立大の阿部先生に寄稿いただきました。順番についての楽しいエピソードをありがとうございました。

さて、私も「順番」について、先日ほのぼのとした場面に出会いました。私が本を買おうとレジに並んでいた時のこと。なかなか前に進まないのをおかしいな、と思って先頭を覗くと小学二、三年生くらいの女の子が小さなガマ口から十円玉やら五円玉をせっせと出しているではありませんか。レジの上にはマンガの文庫本が置いてあったのでおそらくそれを買ったために、五円玉や十円玉をおつかいのお駄賃等で貯めたのでしょう。お母さんは、少し離れた所でただじっと見ているだけ……。結局、女の子は長い時間をかけて一人で四十枚以上の硬貨をレジに出し、好きな漫画を買って店を出て嬉しそうに行きました。とこんな場面でした。

私は順番を待つのが嫌いです。時間のムダだし、夏は暑いし、冬は寒く悪いことづくめです。そのため、ディスプレイランドも行列のできる店も行く気がしませんが、今回の順番ばかりは、待つて良かったな、と思えました。たまにはユトリも必要ですね。(伊)

旧来の通巻八号と呼ぶのを改め、本号より九九九年一月号と呼ぶことにします。

NTSニュース 一九九九年一月号
一九九九年一月二十五日発行